

つば九郎とネッピーから思うこと



先月19日にプロ野球ヤクルトスワローズのマスコットキャラクターであるつば九郎の中に入っていた職員が亡くなりました。多くのメディアがこのことを大きく報道しました。つば九郎はヘルメットを投げ上げる空中くるりんぱやフリップ芸などで観客やチームを喜ばせることで他チームのファンからも人気があったからだと思えます。私は日曜日の夜のニュース番組の中で

「やくるとすわろーすふぁんのみなさん、かーぶのいまむらくん、わざとあてたわけではありません。いまむらくん、あすいこうもでてくるでしょう。ひんのない、きだないやじはやめましょう。
きょうも1ぶのひとがこころない、ひんのないやじでした。まっ、きもちわかります。だけどそれをちびっこがまねをしていっているんです。いみもわからず。それをきいたまわりのひとたちが、うけるかられんこする…それはよくない。ちびっこがこんやいえにかえり、かぞくのかたがきいたら しょくをうけるよ。だから、ひんのないのはやめよ。おもしろいのはいいとして」
(つば九郎ブログより)

2018年4月のヤクルト×広島戦で広島の投手がヤクルトの選手の頭部にボールを当ててしまった時の観客の激しいヤジに対して、つば九郎がブログにあげたことを知りました。私はこのブログが子どもたちと接している人間として私の心に強烈にささりました。以前にも書きましたが、かつて運転中に私が吐いた一言をすぐに我が子が使っているのを聞いてハッとしたことがあります。私たち大人が何気なく使っている言葉を子どもは学習してしまう…とても恐ろしいことだと思いました。逆につば九郎の言うようにいいことやおもしろいことを伝えていかなければならないと改めて感じました。

マスコットキャラクターとしてもう一つ思い出されることがあります。オリックスの「ネッピー」の中に入っていた島野 修という人です。彼は高校時代輝かしい実績を残し、巨人に入団しました。同じ年には田淵幸一（阪神）、星野 仙一（中日）などがいた年です。しかし、入団後にケガをし、結果を残せないまま引退をしたそうです。直後は輝かしい実績やプライドが邪魔をして、「なぜ、自分が着ぐるみに…？」と受け入れられなかったそうです。しかし、年月を経て「自分にしかできない裏方の仕事」と思えるようになり約20年近く、その仕事を行ったと言われています。

社会も自然環境も異常なほどの急速な変化をしています。今後、3年・5年・10年と増々この変化量は大きくなり、答えのない問題と次々と出会わなければならない時代を子どもたちは生き抜いていかなければなりません。当然、知識はしっかりと身につけていかなければなりません。それに加え、「自分で課題を見つける力」や「まわりの人と力を合わせて問題を解決する力」が大切になってきます。学校においても現在、個人で、また校内で研修をしながら授業の在り方についても検討をしているところです。（授業の様子は本校HPもご参照ください）それに加え、近年、何か困難に出会った時に、乗り越えていく（レジリエンス）力も注目されています。時代が変わり、知識だけでなく、我慢する力やあきらめない力、挑戦する力などの人間性・人間力というものを幼児期・学童期に育てておかなければならないと注目されるようになってきました。

根本的に家庭教育や学校教育の中で大切にしなければならないものは踏襲しながらも、子どもたちが将来、何があってもその子らしく生きていくために「今、どう関わるべきなのか」「どう困難を乗り越えさせてあげるのか」を保護者の皆様と学校と一緒に考えていきたいと思えます。